

◎校区に残る  
田の神様(3)  
<発見!>  
大崎の田の神様

# 上西だより

～上西校区集落支援員だより～

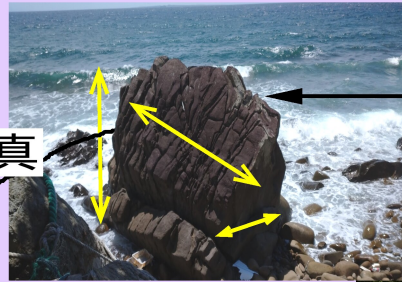
西之表市地域支援課  
上西集落支援員  
馬場 信一 編集  
連絡先090-9579-3953  
上西校区長責任発行

大崎富雄さんとの学童疎開の話の流れで、大崎に田の神様があるということを教えていただきました。「こっから見ゆいろ」と富雄さんは自宅を海側に下り、すぐ下の大岩を指さすのです。つい、私は「えーっ!？」と声に出してしまいました。

年に一度、三月春祭りの時、米・塩・焼酎を供え、竹棒の先を割って下の守護札を挟んで、ここに立てました。



拡大写真



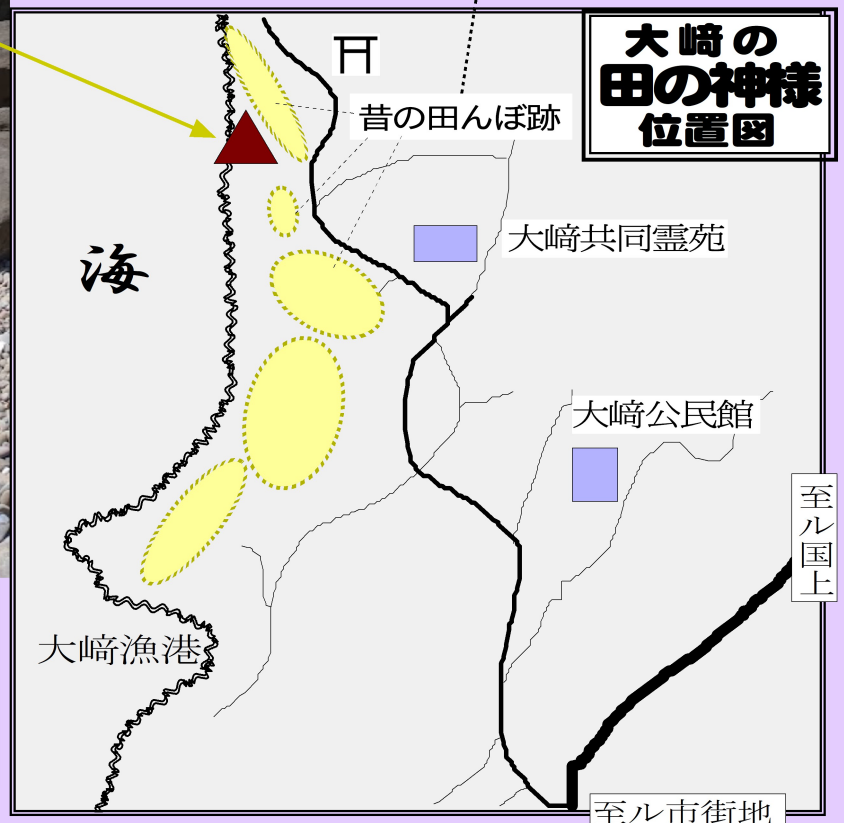
高さ…約5m  
横の長さ…約8m  
幅…約4m

拡大写真



上西校区にある田の神様は人の手によって造形されたものがほとんどであるのに対して、大崎のそれは自然石そのものを田の神様として祀ることに驚きました。しかも巨大。

神事は班長3人と集落長、会計の計5人で、直会は集落長宅でしました。大崎富雄さんが班長をされていた20歳の頃に、諸事情により田の神様を祀る春祭りは最後になったそうです。



昔の田んぼの位置を地図に示すと、田の神様は高さ5mもの岩の上から豊作祈願のために田を見下ろしていることがわかります。神が宿るこの巨岩は周辺では最大のもので、形も見事です。私が実際にこの岩に米や塩、酒などを供えようと供物を片手に持って登るとしたら、それは至難の業です。修行僧になった気分で両手を使って登るのがやっとなりました。この経験から、大崎の先輩諸氏は供えることができただけでも祈願成就へ一歩近づけたと考えたのではないのでしょうか。

沖縄奄美の民間信仰「ニライカナイ」では、神がはるかな海を渡って人々に豊穡もたらします。大崎では海から来た神がこの岩で豊穡・幸福の種を田の神に手渡し、田の神が眼下の田に恵みを与えると想像してみました。すると、漁業や製塩業など海の恵みが豊富な大崎ならではの信仰の場所がここであるということを再確信できました。